



病気と予防のお話し ～JCHO 船橋中央病院から～

第 18 回 子宮頸癌ワクチンについて

産科医

皆様、こんにちは。今日は、子宮頸癌ワクチンについて、書かせて頂きます。そもそも、「子宮頸がん」は、子宮の入り口である子宮頸部（けいぶ）にできるがんのことで、子宮体部にできる「子宮体がん」とは別の病気です。新しく、子宮頸がんにかかる患者さんの数は毎年 10,000 人です。また、子宮頸がんによる死亡者数は年間 2,900 人で年々増加傾向にあります。他の臓器にできる多くのがんとは異なり、特に 20～40 代の若い世代で患者さんが増えていることも子宮頸がんの大きな特徴のひとつです。

78 人に一人が子宮頸がんにかかります。かからなくする方法は単純で、一次予防としての子宮頸がんワクチン接種、二次予防としての子宮頸がん検診です。子宮頸がんは「がんにならずにすむ病気」なのです。

子宮頸がんの原因のほとんどは、性交渉によるヒトパピローマウィルス（HPV）の感染によるものです。

子宮頸がんのワクチンを接種することで、子宮頸がんの 70%を予防できます。しかし、皆さんも「副反応問題」の報道でご存知のように、日本では 2013 年 6 月に子宮頸がんワクチン接種推奨が差し止められました。

子宮頸がんワクチンを接種した後に、不随意運動、認知機能の低下、生理不順などが生じたとして、ワクチン接種後に報告された「多様な症状」の副作用としてあがっています。

しかし、これらの症状とワクチン接種の因果関係は証明されていません。ワクチンを打ったせいでその様な症状になった、とは確実に言えないのです。今も昔も、子宮頸がんワクチンを接種していてもいなくても、同じ割合で思春期に同様の症状が出る方はいます。

実は男性にも、他の HPV 関連がんの予防や、将来のパートナーへ HPV を感染させないためにも、接種する意義は十分にあります。実際にアメリカやオーストラリアなど、男性への接種を推奨している国もあります。

もっと詳しく知りたいときは、日本産婦人科学会の HP に『子宮頸がん と HPV』について詳しく掲載されています。

船橋市では、小学 6 年生から高校 1 年生までの女子は、公費（無料）で接種が可能です。働き世代の 20～40 代の女性はもちろん、10 代の女子学生さんや若い女性、家族やパートナーすべての方に、つらい経験をしていただきたくない為、ぜひ、ご検討いただきたいワクチンです。